

平成四年十月一日発行（毎月一日一回発行）

經濟論叢

第150卷 第4号

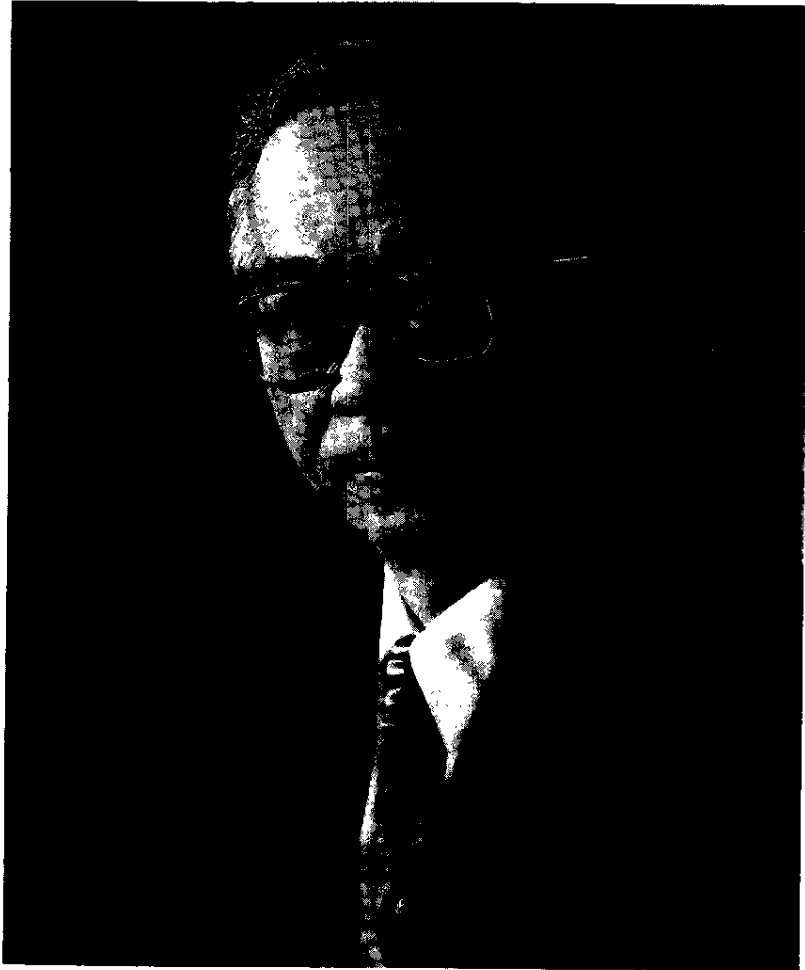
石川常雄教授記念號

献 辞	瀬地山 敏	
バーナード理論をめぐって	飯野春樹	1
日本經濟再生の条件	西村 功	17
金融自由化と公的金融機関	内田 滋	29
中央銀行はその独自情報をどのように 用いるべきか	島本哲朗	48
香港金融の外貨化傾向	佐藤 進	64
総投下労働量・所得率と經濟發展	中島章子	86
日本的經營財務と企業特殊的熟練	池尾和人	102

石川常雄 教授 略歴・著作目録

平成4年10月

京 都 大 學 經 濟 學 會



石川常雄 教授 近影

石川常雄 教授 記念論文集

献 辞

石川常雄先生は、1992年12月12日に満63歳の誕生日をお迎えになり、本年3月末日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、1953年3月に京都大学理学部動物学科を卒業された後、京都大学大学院経済学研究科に進学されました。大学院修了後は和歌山大学、大阪府立大学勤務を経て、1973年4月に京都大学経済学部助教授に任じられ、現在にいたるまで、金融論の教育・研究に尽力されました。とりわけ1983年8月に教授に昇任されてからは、学部の大講座化に惜しめない努力を傾注され、国際統計情報・金融論講座担当教授としての重責を担ってこられました。そうした先生の功績の一端は、先生の教えを受けた卒業生の多くが、現在、様々な分野で目ざましい活躍をしていることから、うかがうことができます。

先生は、ケインジアンとマネタリスト双方の見解に十分目配りした幅広い観点から、主として、わが国におけるマクロ金融政策の運営について研究されてきました。こうした先生の長年の研究の成果は、「現代の金融政策」(東洋経済新報社から1985年に刊行)としてまとめられています。さらに先生は、1977・78年度にシンガポールの南洋大学から客員教授としての招聘をうけられ、当地で現代金融論の講義を行われるとともに、アジア・ドル市場についての研究を進められるなど、国際的にも活躍されました。

また、先生は、その広い知見と温厚なお人柄を通じて、学部運営にも様々な貢献をなさいました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたる学恩に感謝し、「経済論叢」の本号を記念号として編集いたしました。先生と常々ご交誼の深い、あるいは直接にご指導を受けられた研究者の労作を編んで、本号を先生にささげることができましたことは、私どもの何よりの喜びであります。

先生が本学を去られた後も、ますますご健康で、ご研究の発展にご精進されますよう心からお祈りいたします。

1992年9月10日

京都大学経済学部長 瀬地山 敏